

Economic Monitor

失業率は再上昇し雇用回復の足踏みを示唆（10月労働力調査）

10月の失業率は4ヶ月ぶりに上昇。求人状況なども踏まえれば、雇用の持ち直し基調が完全に途絶えたわけではないが、日本経済が踊り場の状況に陥ったのに伴い、雇用の回復も足踏みを余儀なくされている。年齢別には、若年層の失業率が再び9%を超え、雇用情勢の悪化が目立つ。

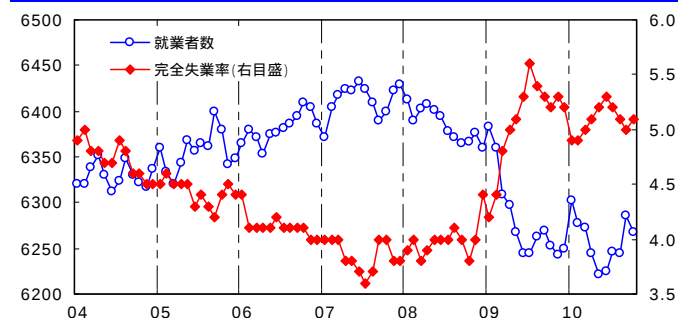
10月の失業率は5.1%と前月から0.1%Pt上昇した。7月以降続いてきた低下が止まり（6月5.3%→7月5.2%→8月5.1%→9月5.0%）、失業率が示す雇用情勢は若干の悪化へ転じた。なお、市場コンセンサスでは横ばいの5.0%が見込まれていたため（当社予想は5.1%への上昇）、若干の下振れと言える。

有効求人倍率は0.56倍（9月0.55倍）へ上昇し、求人広告件数は緩やかな増勢を維持、雇用調整助成金の申請の減少傾向も変わっていないため、雇用情勢の持ち直し基調が完全に途切れたわけではないと考えられる。但し、輸出の増勢鈍化や生産の減少を受けて日本経済が踊り場的な状況に陥ったのに伴い、雇用情勢の回復も一旦は足踏みを余儀なくされている。当社では従来から、10～12月期に雇用の回復が一旦止まり、失業率も2010年中及び2011年前半は5%以上で推移すると見込んでいる。

10月は労働力人口（前月差▲13万人）と就業者数（▲18万人）が共に減少したが、就業者数の減少幅が勝り、失業者数は+5万人と4ヶ月ぶりに増加し、失業率の上昇に繋がった。業種別内訳を見ると、エコポイント商戦などを受けて卸売・小売業の就業者が前月差+24万人と増加したほかは、建設業（▲11万人）、製造業（▲5万人）、金融・保険業（▲6万人）と軒並み低調である。また、高齢化に伴い需要が趨勢的に拡大している医療・福祉セクターの就業者も10月は▲1万人と3ヶ月ぶりに減少した。

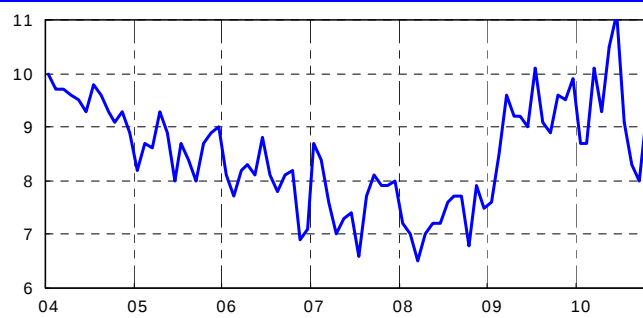
性別・年齢別の動向を見ると、10月は男性の35～44歳（前月差▲8万人）や45～54歳（▲3万人）で失業者が減少した一方、男女を問わず15～24歳の若年層で失業者が増加した（男女計で前月差+8万人）。失業者の増加に伴い、15～24歳の失業率は9.3%（9月8.0%）と3ヶ月ぶりに9%を上回っている。雇用回復の足踏みの影響が、とりわけ若年層にとって大きいことが分かる。

失業率と就業者数の推移（%、万人）



(出所)総務省

完全失業率 15～24歳（%）



(出所)総務省